

高校生の観光事業構想コンテスト



 SDGs修学旅行部門

＜準決勝事業企画書＞

タイトル

タイトル 10～20文字	映画が未来をつなぐ修学旅行
サブタイトル 20～30文字	～10年後またこの場所で会いたい～

チーム情報

都道府県	静岡県
高等学校名	浜松学芸高等学校
チーム名	社会科学部地域調査班・地域創造コース
担当教職員名	大木島 詳弘

メンバー名	学年	性別	氏名	担当	代表
メンバー①	2	女	坂本 りつ	企画・映像	○
メンバー②	2	女	牧田 心路	企画・調査	
メンバー③	2	女	生駒 彩華	調査・映像	
メンバー④	2	女	鈴木 楓	撮影	
メンバー⑤					

※ 1チームのメンバーは3～5名

※ 担当欄にはチームにおける担当業務（企画、調査、取材等）を記入

※ 代表欄にチーム代表者1名に「○」を入れる

映画が未来をつなぐ修学旅行

～10年後またこの場所で会いたい～

ショートフィルム制作

地域を見る**視点**
情報**発信力**
プロジェクト**実行力**

次世代の地域の担い手の**育成**

ART 思考を地域に**還元**

コンテンツツーリズム

コンテンツを
自らの手で作り
人と地域をつなぐ

関係人口の**創出**

新たなコンテンツによる**地域引力**

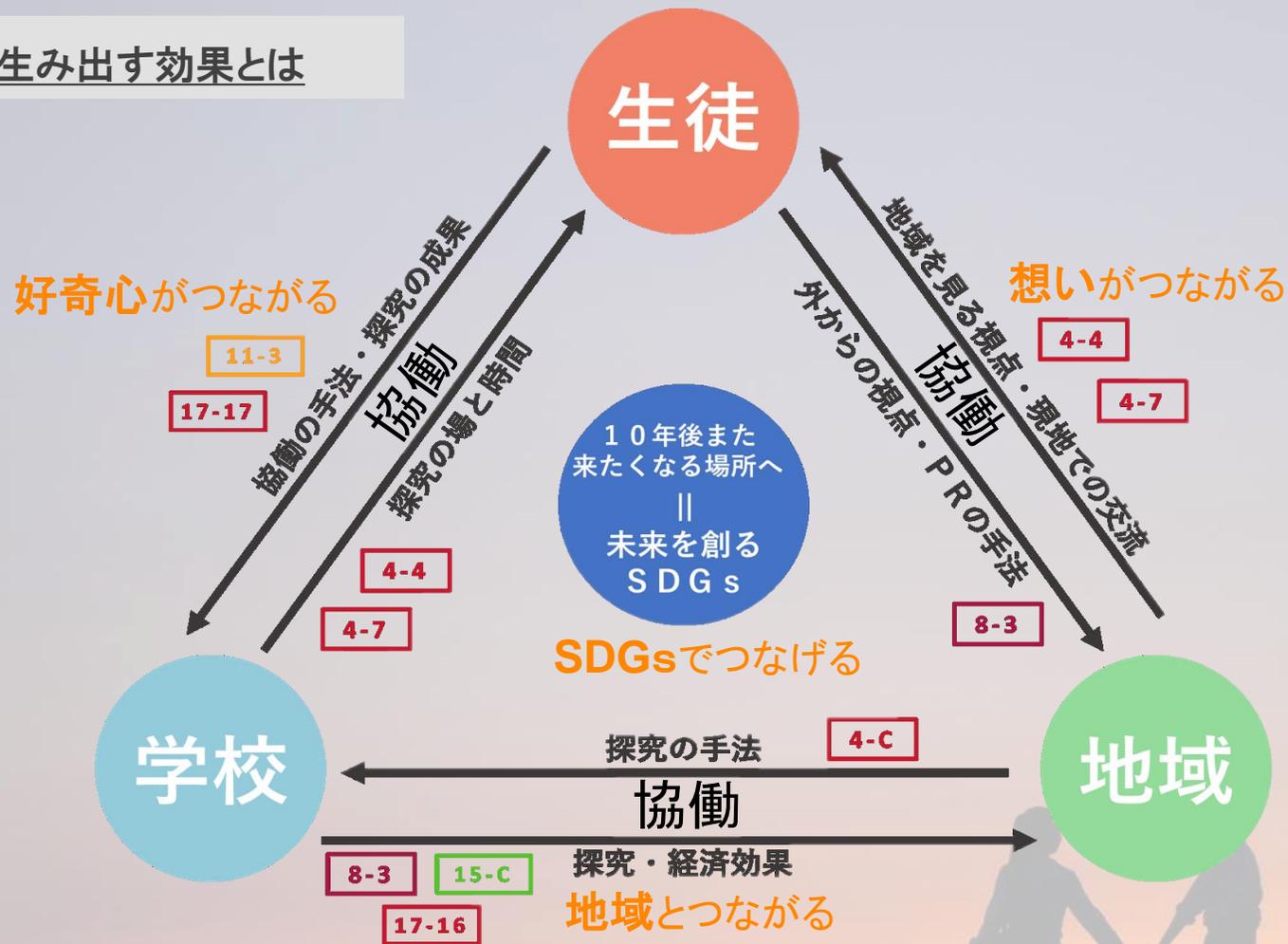
×

持続可能な地域につながる修学旅行

地域と未来をつなげるSDGs

自分にとってかけがえのない場所 = **サードプレイス**

協働が生み出す効果とは



好奇心がつながる

探究の場と機会の拡大

地域とつながる

探究の成果の還元
地域への経済効果

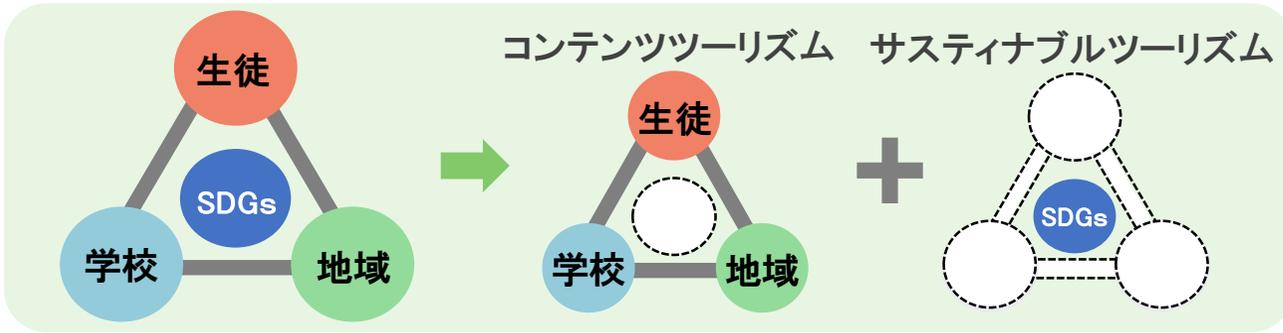
思いがつながる

シビックプライドの共有と醸成
地域を学びの場に転換

SDGsでつなげる

地域と未来をつなげる
多様なSDGsのアプローチ

コンテンツツーリズムが生み出す効果とは



修学旅行をする上で、
生徒・学校・地域が大きく関わる

今回の修学旅行で**3つの要素**に
それぞれのメリットがあることが
協働が生み、修学旅行が成立する。



<学校のメリット>

- ・教員による学校内の活動だけでなく、地域の人々がもっている地域の知識や、専門的な知識を生かして、生徒に教育できる。
- ・2022年度より学校での「総合的な探究の時間」が必修となった。そこで、この修学旅行の活動をカリキュラムとして、取り入れられる

<地域のメリット>

- ・地域を舞台にして、生徒が作ったショートフィルムが地域の発信媒体に。フィルムコミッションの組織やロケーションの魅力を外に発信
- ・地域内だけの視点ではなく、生徒(若者)の新しい視点を取り入れることで、地域の魅力を再発見

<生徒のメリット>

- ・探究の活動の中で、仲間と協力し、自分の役割を持って主体的に取り組む場ができる。→SDGs
- ・従来:週一の探究の時間 約30時間 程度が分散
今回:四日間(30時間)でショートフィルム<成果>をあげる→熱量を維持して活動できる アイディアソン

<地域のメリット>

- ・この修学旅行は40人程度のクラス単位で行う。1, 2人だけで旅行先を訪れる場合よりも、このプランであれば、地域が大きな経済効果が得られる。
- ・コンテンツツーリズムにより、地域に自分たちの思い入れが生まれ、持続的な関係人口の創出を促す。よって、観光業を持続することにもつながる。

<生徒のメリット>

- ・現地で行動することで「景色」「人」「雰囲気」を感じられ、地域への誇りや愛情が生まれ、地域と自ら関わろうとする「シビックプライド」が醸成される。
- ・地域の過疎などマイナスな部分を含めて知る。自分が住む地域(都市部)からの視点と、他地域(地方)からの視点とを相互的に考えられるようになる。

<学校のメリット>

- ・生徒が修学旅行で地域と協働し、ショートフィルムをつかった活動が探究の成果として得られる。
- ・生徒が修学旅行で地域と協働し、信頼関係ができる中で、その後も学校と地域がつながりを持ち続ける→学校は地域の人と協働する選択肢ができ、教育の可能性が広がる。

探究の場と機会の**拡大**

シビックプライドの共有と醸成
地域を学びの場に**転換**

探究の成果の還元
地域への**経済効果**

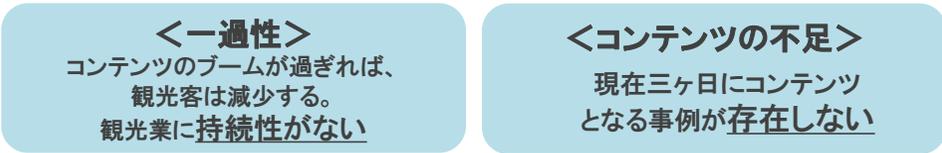
コンテンツツーリズムでかけがえのない場所に

コンテンツツーリズム

小説・ドラマ・アニメなどのコンテンツとの関わりがある地域に観光客が訪れる観光



しかし従来のコンテンツツーリズムでは...



地方の現状...



●今回提案する修学旅行

コンテンツを自分たちで作り、その地域を自分たちだけの**聖地に昇華**する



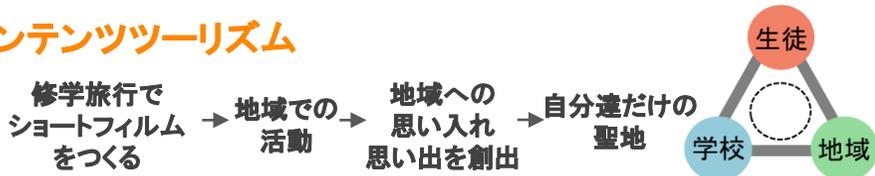
どうしてショートフィルムなのか

- ・三ヶ日には山、海、鉄道、レトロな町並みがある → 映画のロケーションがそろっている
- ・地域内のつながりが強く、フィルムコミッション(以下FC)の組織が成立している → 映画の制作環境が整っている



住み続けられる永続的な地域へつながる

コンテンツツーリズム



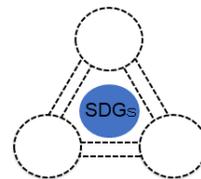
学校・生徒・地域それぞれ
メリットが生まれる
メリットがSDGsの項目に
あてはまっている

自分達だけの聖地に昇華
永続的な関係人口の創出

地域・生徒・学校が相互につながる

サステナブルツーリズム

修学旅行が持続可能な
社会・観光業につながる-SDGs的思考



生徒・学校・地域
それぞれにメリットがある
||
プランが1年だけの
活動にならず持続する



「10年後また来なくなる」
||
地域と人の
つながりが持続する



想いが持続し、未来につながる

SDGsとの関わりは？

生徒→学校  17
【学校への成果&地域との関係】 17-3 17-7

- ・協働の手法
- ・探求の成果

学校→生徒  4
【探求と教育の場】 4-4 4-7

- ・探求の場と時間を確保・創出

地域→生徒  11  4
【新たな能力・関係】 11-a 4-4 4-7

- ・協働の手法
- ・探求の成果

生徒→地域  8
【地域の魅力発信】 8-3

- ・外からの新しい視点
- ・動画による地域のPR

地域→学校  4
【学校にはない教育の場】 4-C

- ・経費削減
- ・知識・探求の手法を得られる

学校→地域  8  15  17
【お金・新たな関わり】 8-3 15-c 17-16

- ・クラス単位の修学旅行
- ・探求の成果

経済

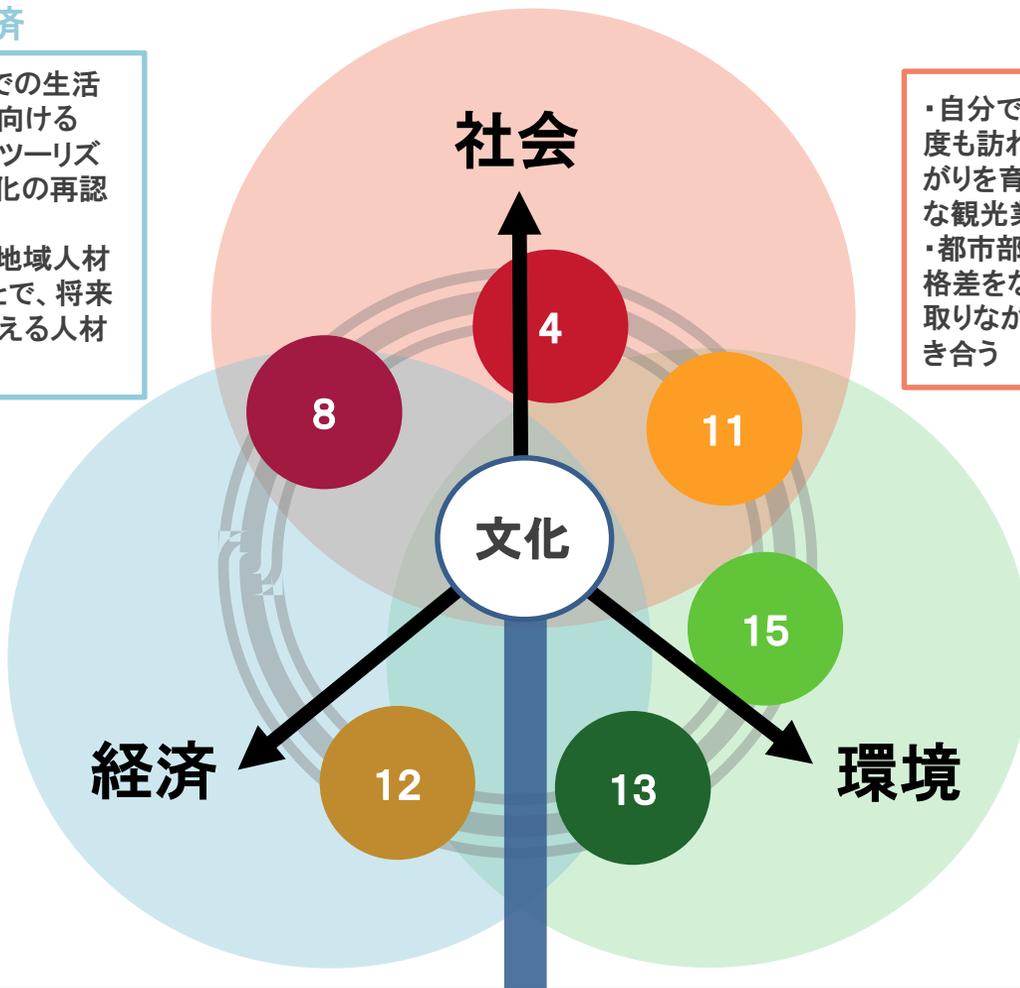
・過疎地域での生活文化に目を向ける
・コンテンツツーリズムによる文化の再認識と発見
・Uターンや地域人材を育てることで、将来の地域を支える人材の育成

社会

・自分で聖地を作り何度も訪れたいくなるつながりを育てる持続可能な観光業
・都市部と過疎地域の格差をなくし相互性を取りながらSDGsに向き合う

環境

・修学旅行を地域された地域で低インパクトに完結させることで、カーボンフットプリントを軽減する環境に配慮した修学旅行
・その後の生活の中で環境に意識を向けられる経験



教育旅行を通して地域文化を学ぶ → 発信するへ
映像 × 創る → コンテンツ

自らコンテンツを創り出す修学旅行

修学旅行のフローは？

学校

事前学習

- ① コンセプト考案
- ② 絵コンテ制作
ストーリー設定
- ③ 試し撮り
- ④ FCの方と会議

現地

現地活動

- ⑤ 現地での
フィールドワーク
- ⑥ 撮影
- ⑦ コンセプト再構築
- ⑧ 編集・完成
- ⑨ 完成披露会

学校

事後学習

- ⑩ 他班との交流
- ⑪ 地域との関わり方
について考える

① 修学旅行で製作するショートフィルムのコンセプトを考案する。地図アプリなどを使い現地の様子を観察したり現地の情報を調べたりすることを行う。

② 登場人物のストーリーを設定や、絵コンテの製作をする。後にFCの方と会議をする際の材料になる。

③ 学校内でコンセプト・ストーリー設定・絵コンテをもとに画角を確認しながら試し撮りを行う。

④ FCの方と事前にオンライン等で会議をする。生徒側から提案をし、現地でできるかの判断を行う。

⑤ 自分たちの足で町を歩き、魅力を見つける。また、民泊体験を行い、現地の人や郷土料理に触れる。

⑥ ショートフィルムの撮影を行う。撮影のノウハウはFCの方に教えてもらい進める。

⑦ フィールドワークを経て、事前学習で考えたものを再構築しても良い。

⑧ 撮影した素材をFCの方と協同して編集する。三日目の夜、完成することを目標とする。

⑨ この修学旅行に関わってくれた方を招待し、完成したショートフィルムの披露会を行う。

⑩ 修学旅行の行き先が違う同級生や、違う班の同級生と交流会を行う。その際、得たものなどの振り返りも含め、共有する。

⑪ 修学旅行から帰ってきてても他地域に目を向ける視点を忘れず、自分の地域との関わり方を考える。

修学旅行の位置づけ

ESDでつくる新しい学び

Education for Sustainable Development
(持続可能な開発のための教育)

様々な教科を結び付け、
持続可能な社会を実現させるための
教育旅行

ESDの観点を用いた学びの場



地域全体が学びの場に



活動地域地図



里山

山の向こうから里山の風景を伺うことができる



農業景観

水田やみかん畑など、農業景観は次世代に残したい日本の原風景です



町並み

残されたレトロな町並みや、ノスタルジックな景色を感じることができる



天浜線

今回制作したフィルムの舞台である天竜浜名湖鉄道の「尾奈駅」



リステル浜名湖

修学旅行で宿泊するホテル。現地の魅力を感じることができる。



浜名湖

時間とともに様々な表情を見せる浜名湖は、絶好の撮影ポイント



アクセス

東京	成田国際空港	JR特急成田エクスプレス	60分	東京駅	JR東海道新幹線 ひかり	90分	浜松駅
	羽田空港	東京モノレール+JR線 京浜急行(快速)	30分 13分	品川駅			
大阪	関西国際空港	JR特急 はるか	50分	新大阪駅	JR東海道新幹線 ひかり	90分	
	名古屋	中部国際空港 (セントレア)	名鉄特急 ミュースカイ	30分	名古屋駅	JR東海道新幹線 ひかり	
		空港バス「遠州鉄道 e-wing」	120分				

域内移動手段

やってみたい・行ってみたい
をすぐ叶える交通手段

「e-バイク」

- ・低CO₂
- ・低インパクト
- ・高機動力



e-パック交換所を
様々なスポットに配置

「ここでしかできない」から「どこでもできる」 修学旅行へ

私たちの地域

〈映画作り〉

コンテンツ
ツーリズム
を生かした
修学旅行を
パッケージ化

パッケージ化

日本各地
にある三ヶ
日のような
原石都市

都市部と
過疎地域の
繋がりが
広まる

他の地域

〈異なる地域〉

地域ごとの特色
を出すことが可能
郷土愛が育まれる

「経済」「社会」「環境」全ての観点が含まれる

パッケージ化され地域ごとに達成されるSDGsの項目が
変化することでより多くの項目がつながる

パッケージ化 → 誰でもどこでもできる

SDGsの最終目標である

「誰一人取り残さない住み続けられる街づくり」を達成できる

この修学旅行で

発信の手法・**ART**思考を学ぶ

修学旅行後も学びが続く

〈この修学旅行がゴールではない〉

持続可能性

将来自分たちの地域でも
活動を継続できる

学習可能性

地域での教育旅行が
全体的・包括的な
学びに繋がる

私たちが達成した、もう一つのサステイナブル



地域の方々との交流は私
を大きく成長させてくれた、
そんな修学旅行でした。



三ヶ日のお母さんたちと
作るご飯が私にとってな
よりのごちそうでした。



三ヶ日で活動した経験は
私にとって一生忘れられ
ない思い出になりました。



ファインダーを通して見た
町はどこも魅力的で、もっ
とシャッターを切りたいと
思いました。

私たちが制作した
動画はこちら！



行程詳細

日	日程	宿泊地 食事
1	移動 活動開始・フィールドワーク 夕食 構想会議 活動終了 8:00 — 12:00 — 18:00 — 19:00 — 21:00	昼食:市内各自 夕食:市内各自 宿泊:リステル浜名湖
2	活動開始・撮影 民食体験 (現地の方と調理や食事を楽しむ) 活動終了 9:00~15:00 — 16:00~19:00 — 21:00	昼食:市内各自 夕食:地域のご家庭 宿泊:リステル浜名湖
3	活動開始・撮影(続き) 編集 夕食 完成 9:00~12:00 — 13:30~17:00 — 18:00 — 21:00	昼食:市内各自 夕食:リステル浜名湖 宿泊:リステル浜名湖
4	報告会準備 昼食 報告会 解散 9:00~12:00 — 12:00 — 13:00 — 15:00	昼食:市内惣菜店(ケータリング)

旅行代金

東京発の場合のモデルケース

項目(代金明細)	金額
・新幹線往復	・15,600円
・貸切バス (人数割)	・3,000円
・宿泊 (@8,500×3)	・25,500円
・食事代 @3,000×2回 (各自食は除く)	・6,000円
・e-Bike使用料 (期間契約)	・8,000円
・FC企画料 5,000円	・5,000円
・保険料	・2,000円
合計	6,5100円

